

令和4年度新SBIR制度加速事業(フェーズ1) 所見

対象施策	評価項目	委員の所見 (優れた点や改善を要する点など)
<p>【科学技術振興機構(JST)】 大学発新産業創出プログラム(START)プロジェクト推進型(SBIRフェーズ1支援)</p>	1. 計画に示した取組の着実な実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・着実に進んでいるが、目標を達成できない点も考えてBとした。</li> <li>・相対的には、十分な数の応募・採択がなされており、多くの案件がフェーズ2に繋がる可能性を示している点が評価できる。</li> <li>・フェーズ2に相当する事業への申請を目指した事業運営を行うと同時に、研究代表者、ならびに委員、専門委員からの総合的な満足度評価も高く、着実な実施が行われたと思われる。応募件数が限られることは将来に向けた課題である。</li> <li>・母集団形成および通過率、通過件数は目標を下回っているが、フェーズ2への通過率、通過件数から昨年度を上回る評価とすべきと考える。</li> </ul>
	2. 取組の効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究代表者ならびに委員・専門委員の満足度も高く良い効果が生まれていると言える。またスタートアップへの進化も進んでいる。</li> <li>・全体として、取組みに関する満足度が高く、商業化、事業化に向けた道筋を意識しながらメンタリングがなされている点が評価できる。今後は、事業化後早い段階からグローバル市場を目指すポーン・グローバルの性格を持ったシーズの育成が強く期待される。</li> <li>・12件中10件がフェーズ2に相当する事業への申請を予定しており、また起業事例も生まれるなど、SBIR制度の趣旨を踏まえた中長期的な成果の可能性がみられる。</li> <li>・他の候補にも通ずるのだが、当事業における資金提供以外でなんのバリューがあったのかを明確化すべきかと考える。一方で、フェーズ2への通過率と通過件数から効果をAとすべきと判断した。</li> </ul>
	3. 事業体系の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・採択に際して、時間的制約は認識しながらも、インタビューなどを取り入れ、研究者やその他のPI、また経営・マーケティングに関与している(する可能性のある)人物、またチームでの能力などを評価に取り入れることも考慮する必要がある。</li> <li>・前年度採択課題についても着実な活動推進が行われ、外部のプログラム事業者との連携も行われるなど、創意工夫がうかがえる。一方で、各省庁との連携はもう一段の踏み込みが必要である。</li> <li>・現行の当事業の枠組みの中で想定される必要な形式はほぼすべて整っているように見える。フェーズ2への以降を主目的とするのであれば現行の体制で一定評価でき、これが事業化、起業という文脈に乗せるためには複数の機能実装が必要となるであろう。</li> <li>・研究期間5か月に対する期間の満足度が低すぎないことから、選定クオリティと体制構築が他と比して高いのではないかと考察する。</li> </ul>
	4. 「指定補助金等の交付等に関する指針」の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究期間を最大限に長く取るなどの努力が実っている。</li> <li>・指針に基づいた実施、また実施の改善が行われている。</li> <li>・合致していればBという前提。ここの評価をほかの部門と統一する必要がある。相対的に達成されていればAとする前提で他の対象も統一した。</li> </ul>

令和4年度新SBIR制度加速事業(フェーズ1) 所見

対象施策	評価項目	委員の所見 (優れた点や改善を要する点など)
<p>【新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)】 研究開発型スタートアップ支援事業(SBIR推進プログラム)</p>	1. 計画に示した取組の着実な実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・応募件数など、課題設定から考え直す事例が多いように見える。</li> <li>・採択件数が3件にとどまってしまっている点を危惧する。</li> <li>・取り組みの基本的な計画通りの執行は執り行われたが、課題にマッチする応募が限られ、採択件数が伸び悩んだ。応募プールの拡充、課題設定の見直し等が必要な状況である。</li> <li>・母集団形成、通過率、件数ともに不十分。NEDOという機関のポジション、立場から考えると圧倒的に不足している。その要因分析も不十分であった。</li> </ul>
	2. 取組の効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・採択案件の満足度を高める努力がまだ必要ではないか。</li> <li>・採択された案件の全てが起業済みである点は評価できる一方、世界の大きなトレンドを捉えた上で、グローバルな市場の早期獲得が可能となるような案件の採択ができていないのが課題となっている。「普通の」テクノロジーに対する補助金という意味合いを超えた「長期投資」に資する案件が望まれる。</li> <li>・各案件の開発目標については十分に達成されており、支援事業として一定の効果が確認できる。一方で、将来的なニーズ元省庁における採用に向けての取り組み、支援に関しては改善の余地が確認される。</li> <li>・この結果に対してはROIはマイナスであったろう。母集団形成または通過度のバリューアップ、今後につながる体制構築、いずれかで評価に値する結果が期待されるが、いずれも不足しているといえる。</li> </ul>
	3. 事業体系の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短い時間のやり取りでの判断は難しいが、本SBIR事業実行に対するコミットメントを、強く感じ取ることができなかった点に、若干の不安が残る。</li> <li>・研究開発支援体制として適切な体制が構築され、適切な運営が行われている。一方で、各省庁での調達・採用を目指した取り組みについては改善の余地がみられる。</li> <li>・研究開発期間は6か月とれているが、期間満足度が低く、サポート頻度も低い。採択してから成功へ導く体制構築が不十分と言わざるを得ないのではないだろうか。</li> </ul>
	4. 「指定補助金等の交付等に関する指針」の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の開始時期は、資金が実際に事業主体に渡ってからの応募になるため、どこまで短くできるかわからないが、こうした小さな積み重ねの努力が事業全体の満足度にも反映すると思われる。</li> <li>・指針に基づいた実施、また実施の改善が着実に進んでいる。</li> <li>・最低限の要件を満たしている</li> </ul>

令和4年度新SBIR制度加速事業(フェーズ2) 所見

対象施策	評価項目	委員の所見 (優れた点や改善を要する点など)
【生物系特定産業技術 研究支援センター (BRAIN)】 スタートアップ総合支援 プログラム(SBIR支援)	1. 計画に示した取組の着実な 実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フェーズ2への目標達成が一部繰り上がるなどの成果を出している点は評価できる。</li> <li>・PRISM予算対応案件として3件の採択、うち2件において順調な進捗が見られる点は評価できる。</li> <li>・省庁間連携を容易するために事業期間や時期を調整するなど、事業化段階を意識した事業運営が着実に実施されている。また採択された案件については順調に研究開発が進行している。</li> <li>・記載内容に関してフェーズ2のアプローチとして優れていると評価したい。一方で難易度の高いフェーズ2であるがゆえに、2年中1年目の各PJの具体的な研究進捗および企業化をより理解できれば評点を上げることができたと思慮。</li> </ul>
	2. 取組の効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国におけるVCの動きは決して活発ではないが、その中で一定の資金を集めることができるのは評価できる。</li> <li>・事業化後早い段階からグローバル市場を目指すボーン・グローバルの性格を持った案件採択を意識し、採択の一つの判断基準である「革新性」を評価していく必要もあろう。</li> <li>・各案件の事業化に向けたFSやPoC、法人設立にむけて多面的な支援を行っており、事業化支援のプログラムとして、順調に進展している。一方で、省庁での調達・採用に向けた支援の取り組みに関しては改善の余地がある。</li> <li>・SBIRの目的と主旨との一致がどれほどあるのか、不明瞭である。他の一般的な研究開発予算と差がないように見受けられる。国を挙げて実施する政府調達とスタートアップ支援の組み合わせの意義をご理解いただきたい。また、フェーズ2における支援として研究だけではなく企業の成長拡大も範囲にいれるべきであるのかどうか、この事業テーマとの</li> </ul>
	3. 事業体系の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比較的順調な体制構築だとは思いますが、取り組みの効果にまだ追加的な改善が求められる。</li> <li>・省庁を跨いだ活動が求められる連結課題において、一層の壁を越えた連携を目指すと共に、今後は、研究者と経営者のマッチが大切になる今後のフェーズを見据え、経営人材のプールの醸成と適切なリクルートが求められる。</li> <li>・各省庁担当者やPM、また外部専門家の参画が適切に行われている。一方で、政府調達に向けた取り組みの支援体制の構築に関しては改善の余地が見られる。</li> <li>・実施項目としては評価されるべきだと考える。実施事項の具体的な実施事項が記載されていないので内容のクオリティに対しては評価することができず、クオリティを勘案せずにAとした。</li> </ul>
	4. 「指定補助金等の交付等に関する指針」の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他省庁との連携やマッチングイベントなどの多彩な活動を行っていることは素晴らしい。</li> <li>・指針に基づいた実施、また実施の改善が着実に実行されている。</li> <li>・要件に合致している。</li> </ul>

令和4年度新SBIR制度加速事業(フェーズ2) 所見

対象施策	評価項目	委員の所見 (優れた点や改善を要する点など)
【国土交通省】 交通運輸技術開発推進 制度	1. 計画に示した取組の着実な実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フェーズ2での研究成果の展開にまだ時間がかかりそうである。まずは、フェーズ2への進展を果たしていることは評価したい。目標としていた半数以上の採択に漕ぎ着けている事は評価する。</li> <li>・結果としての採択件数に関しては、若干の不満が残る。社会実装性を主軸に据えた採択プロセスが、相対的に小さなビジョンを伴った案件の造成につながる可能性がある点を指摘しておきたい。</li> <li>・一定数の応募を背景として、目標に定めた採択を得ており、研究開発支援事業としての着実な進展が確認できる。</li> <li>・SBIRの目的と主旨との一致がどれほどあるのか、不明瞭である。他の一般的な研究開発予算と差がないように見受けられる。国を挙げて実施する政府調達とスタートアップ支援の組み合わせの意義をご理解いただきたい。また、フェーズ2における支援として研究だけではなく企業の成長拡大も範囲にいれるべきであるのかどうか、この事業テーマとの</li> </ul>
	2. 取組の効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質疑にもあったように、「採択をして、研究機関に繋ぎ、資金を提供する」ことが主たる目的ということ的前提とすれば、具体的な進捗へのコミットメントを主たる評価項目にはできない面もある。しかしながら、グローバルな市場の早期獲得が可能となるような案件の醸成に繋がる取り組みも同時に期待される。</li> <li>・2年計画の初年度として順調に研究開発が進捗しており、社会実装を目指した取り組みが行われている。自治体等での試験採用などの実績も確認できることは評価できるが、将来的な自治体、省庁での調達・採用に向けた支援効果については改善の余地がある。</li> </ul>
	3. 事業体系の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価に記載されているように審査体制の今後の見直しを行ってほしい。</li> <li>・より高いプログラムへのコミットメントが期待される。</li> <li>・事業運営に必要な事業体制が構築され、計画を遅延なく順調に進捗させている。案件の特性に応じた審査員の追加選定など、継続的な改善の取り組みも行われている。一方で、SBIRの重要な目的である省庁等公的団体における調達・採用に向けての取り組みに関しては改善の余地がある。</li> <li>・選定および資金提供という観点においては最低限見たいして。SBIRの目的、主旨と照らし合わせた体系構築がより望まれる。</li> </ul>
	4. 「指定補助金等の交付等に関する指針」の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PMの配置、ステージゲート審査の実施、また支援体制も資料と口頭の報告を受けている限り、順調に進んでいると判断する。</li> <li>・指針に基づいた実施、また実施の改善が着実に進んでいる。</li> <li>・最低限の要件を満たしている</li> </ul>